5F 大ホール

基調講演 10:30 ～ 12:00

テーマ

「木の時代へ」

建築家 **隈 研吾**

今、われわれはコンクリートの時代から、木の時代への転換期を迎えています。20 世紀は、工業化の時代であり、コンクリートが世界を支配した時代でした。それ以前に存在していた、ローカルな文化、材料が否定され、すべてがコンクリートという画一的材料で覆いつくされてしまいました。

しかし、今、われわれは、失ったものの価値に気づきつつあります。いかに、それぞれの場所に根ざした文化を取り戻し、ローカルな技術、材料を復活させるかが、21 世紀建築の課題であると僕は考えています。日本は幸いなことに「木」という材料をベースにした、文化、経済システムを持っていました。それによって国土が保全され、景観が保たれ、サステイナブルなコミュニティが成立していたのです。それを取り戻すため、僕らのチャレンジを、新国立競技場のデザインを含めて、多数の実例で紹介します。

プロフィール 隈 研吾（くま けんご） 1954年横浜生。1979年東京大学建築学科大学院修了。
85－86年に米国・コロンビア大学客員研究員。1990 年、隈研吾建築都市設計事務所設立。
2001年～2008年、慶應義塾大学教授。 2009年に東京大学教授に就任、現在に至る。
初期の主な作品には、亀老山展望台（1994）、水／ガラス（1995、全米建築家協会ベネディクタス賞）、
1997年「森舞台/登米市伝統継承館」（日本建築学会賞受賞）、「馬頭広重美術館」（2000、村野賞）、
グレート・バンブー・ウォール（北京、2002）など。
進行中のプロジェクトで、東京オリンピックに向けて建設される新国立競技場の設計にも携わっている。

5F 小ホール

病院FMシンポジウム 13:20 ～ 15:10

実力病院のベストプラクティスに学ぶ 「医療の質」を測り改善する 聖路加国際病院と日本看護協会でのQI活動

●講演 **聖路加病院のQI活動の実践**

福井 次矢
聖路加国際大学 学長 /聖路加国際病院 院長

日本看護協会による看護の質改善活動

岩澤 由子
日本看護協会 看護開発部 看護情報課 課長

●座談会 **QI活動とFM活動をどうリンクさせるか?**

パネラー **福井 次矢** 前掲
岩澤 由子 前掲
加藤 哲夫 アイネット・システムズ株式会社

モデレーター **和泉 隆** 帝京大学 特任アドバイザー

世に「実力病院」といわれる病院がある。非常に質の高い医療を提供するが故にこうした名声を勝ち取っているのだが、高い評価の理由はそれだけであろうか?
医療の進歩はめざましく、患者が期待するサービスレベルは益々上がっている。

医療の質の改善のため、コアサービスの領域では日常業務でPDCA を繰返すQI 活動が先駆的な取り組みとして実施されている。一方、これを支えるフリンジサービスの改善に関しては、FM との関係が深いにもかかわらず、表舞台に表れていないのが実情である。

本企画では、実力病院が実施するQI 活動の実態を紹介するとともに、これを支えるフリンジサービスとの関連性、またフリンジサービスのマネジメント手法について、ご参加の皆様と一緒に考えてみたい。